

蒲郡南地区  
かわら版  
第1号

蒲郡南地区  
まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

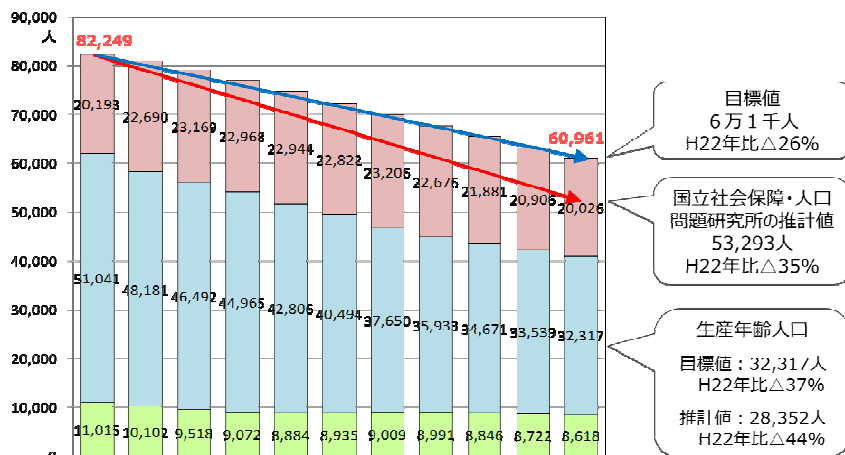
地区のまちづくりと公共施設の将来について皆さまとともに考えています

蒲郡市では、今年度、蒲郡南地区（蒲郡中学校区）及び三谷地区にて、地区の皆さまが主な利用者となる公共施設（小学校・中学校・保育園・児童館・公民館）の将来の姿について、地区の住民の皆さまと協働で考えていく機会として「まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を開催しております。こちらの「かわら版」を通じて、ワークショップの各回の検討内容のお知らせや地区にお住まいの皆さまからのご意見の募集を行ってまいります。

蒲郡市の現状と課題

① 人口減少と少子高齢化

蒲郡市の人口は、42年後の平成72年（2060年）には、現在から2万人以上減少し、約61,000人（市目標値）になると推計されています。また、生産年齢人口が減ることによる税収減、少子高齢化による扶助費の増加により、今後公共施設の維持更新にかけられることができる費用が減っていきます。



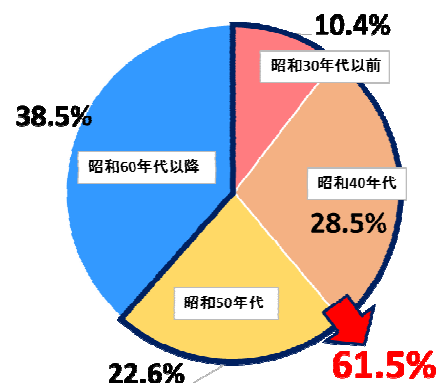
図：蒲郡市の目標人口

② 進む施設の老朽化

蒲郡市の公共施設の多くは、昭和40年代から50年代にかけての高度経済成長期に建設されました。

人口・経済ともに右肩上がりだったこの時期に建てられた建物は、今では少なくとも築33年を超えています。これらは市が保有するハコモノ施設の約6割を占めています。

今後、安全性や機能性を確保するために大規模な改修や建替えが必要となり、多額の費用が必要となります。

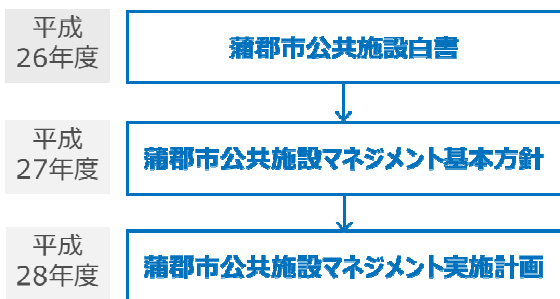


図：市の保有する公共施設の建築年別床面積割合

蒲郡市におけるこれまでの取り組み

公共施設マネジメントとは、市などが所有・管理する公共施設を自治体経営の視点から、総合的、統括的に管理・運営・活用する取り組みです。

市では、平成26年度に「蒲郡市公共施設白書」を作成し、公共施設の現状と課題を整理しました。その後、アンケートや市民会議などを通じ、市民の皆さまのご意見を反映させながら、公共施設マネジメントの原則を示す「蒲郡市公共施設マネジメント基本方針」、公共施設の再整備を進めていくための方策を示す「蒲郡市公共施設マネジメント実施計画」を策定しました。



蒲郡市公共施設マネジメント基本方針

- 適正化
- 効率化
- 魅力
- 安全性
- 実行力

この5項目を公共施設マネジメントの取り組みを進めていく上での原則として示しました。

蒲郡市公共施設マネジメント実施計画

目標、施設用途別の方向性、実行体制などを示し、公共施設マネジメントの取り組みを具体化させました。

計画期間、マネジメント目標については、以下のとおりです。

- ◆計画期間：30年間(平成29年度から平成58年度まで)
- ◆マネジメント目標：
  - ①建物更新の際に概ね3割の床面積を縮減する。
  - ②保有床面積の縮減と建物の長寿命化による費用の平準化により、523億円の維持更新費を縮減する。

# 地区個別計画の策定

地区の皆さまが主な利用者となる小中学校、保育園、児童館及び公民館（地区利用型施設）の配置や活用方法を示す「地区個別計画」を中学校区ごとに策定していきます。

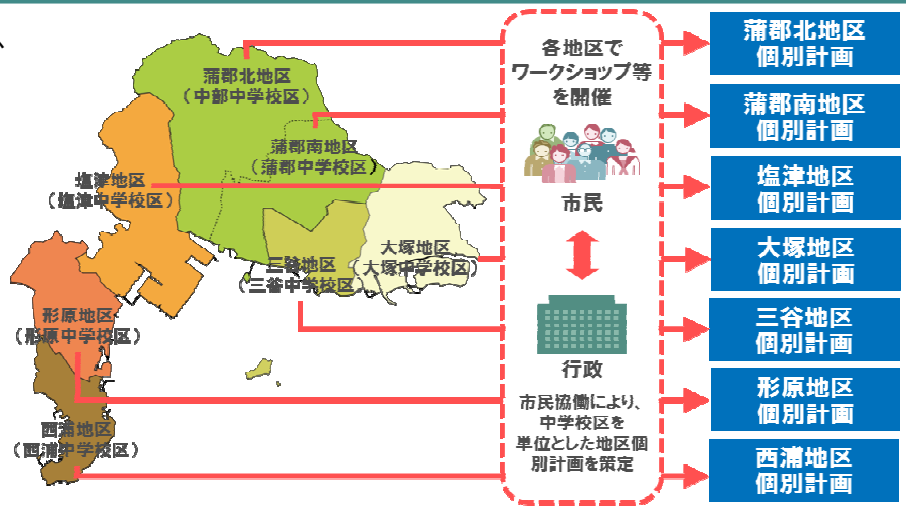
ワークショップやかわら版での意見募集、パネル展示型説明会等の実施により地区にお住まいの皆さまの考え方・アイデアを取り入れ、皆さまと協働で計画の策定を進めていきます。

## 【用語解説】

**ワークショップ**：意見やアイデアを出し合い、話し合いをしながらその成果をまとめていく検討方法です。

**かわら版**：本紙のことです。ワークショップでの検討内容をお知らせし、地区の皆さまからご意見を募集します。

**パネル展示型説明会**：住民の皆さまが集まる施設でパネルを用いた説明や簡単なアンケートを行います。昨年度は地区内の商業施設や児童館等で実施しました。

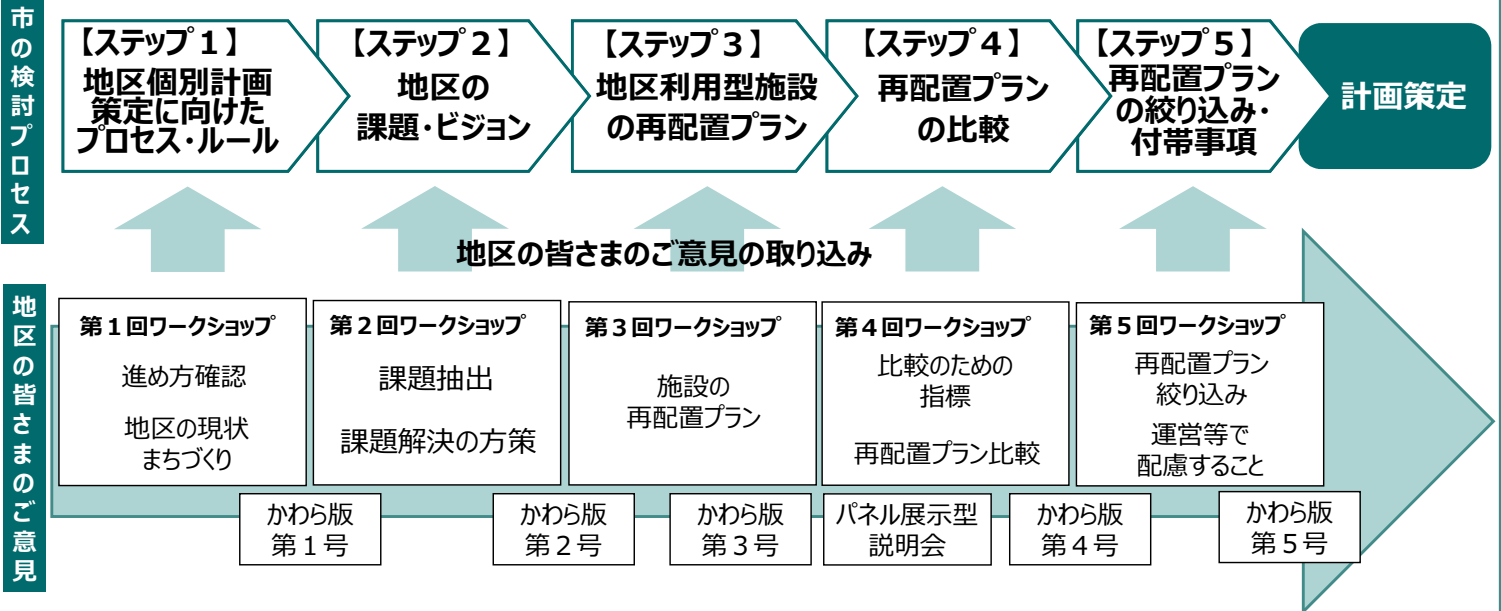


# ワークショップの目的と検討の進め方

蒲郡市が「地区個別計画」を策定するにあたり、市と地区の皆さまと協働するための重要な機会として、「まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を実施しています。

このワークショップは、「蒲郡市公共施設マネジメント基本方針」を踏まえ、これから起こる様々な社会の変化や地域の課題に対応した既成概念にとらわれない、より良い公共施設の配置や使い方を考えるために開催するものです。「地区の将来をどのように考えるか」「なぜそう考えるのか」といった地区の皆さまの関心に着目していきます。

市は、ワークショップやかわら版を通じて得た皆さまのご意見を検討の各段階で取り込みながら、「蒲郡南地区個別計画」の策定を行うことで、“住んでよかった”“住み続けたい”と思えるような誇りと愛着を持てるまちづくりを目指します。



# 第1回ワークショップを開催しました

7月8日（日）蒲郡中学校にて、「第1回蒲郡南地区 まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を開催しました。蒲郡南地区にお住まいの38名の方が参加され、活発な意見交換が行われました。

今回のワークショップでは、まず、これから実施されるワークショップに関する事、これまでの蒲郡市の公共施設マネジメントの取り組みや課題について事務局が説明を行いました。その後、4つのグループに分かれ、ワークショップの進め方の確認と、蒲郡南地区の公共施設の現状や今後のまちづくりについて地区の皆さんで話し合いました。ワークショップの最後には各グループでの議論の内容を会場全体で共有し、第1回目のワークショップを終えました。



第1回ワークショップの様子



# 第1回ワークショップでのご意見

## 計画の検討やワークショップの進め方について

### ■ 公共施設マネジメント実施計画について

- 将来的に人口が減少するという理由で公共施設を減らすと、さらに人口が減ってしまい先細りになってしまう。人口を増やすことを考えた公共施設のあり方を検討したい。
- 駅前地区は人口が必ずしも減少することでもないはずである。また、人口密度を踏まえると、現状の保有面積が多いとは言えないのではないかと。必要な施設はあるので、単純に施設を減らす、3割床面積を縮減するといった議論ではなく、各施設の機能や役割を見極めながら存続の有無を考えていきたい。
- 将来的に市の人口が減少するので公共施設を減らす必要があることは理解できたが、市の中心部であり、津波や液状化の影響も心配ない本地区は、既に宅地開発されている場所もある。市全体と人口減少の度合いも異なるだろう。このことから施設が多いのは当然のことであり、一律に3割縮減という考え方には違和感がある。
- コスト削減を大前提とした検討は避けて、将来の蒲郡南地区の地域づくりのためになる話し合いをしていきたい。
- 市全体で公共施設を3割縮減する方針が妥当な考えなのかを理解するため、その算定の根拠を示してほしい。
- 人口が今後3割減るのだとすると、公共施設の面積も3割以上減らす必要があるのではないかと。
- 地区個別計画は、いつ実行されるのか。10年後か30年後かによって考え方や優先順位が異なってくる。
- 市全体だけでなく、地区ごとの正確なデータ（例：高齢者数や児童生徒数、施設ごとの支出や収入など）や情報を出してもらい、蒲郡南地区や地区内の各地域の現状や課題、歴史的背景やこれまでの経緯を踏まえて議論を進めたい。

### ■ 地区個別計画策定に向けた進め方について

- 中学校区ごとに公共施設の再編を考えるとことだが、学校区ごとに検討した再編計画を市全体としてひとつに合わせた時に、果たして整合性やバランスのとれた計画になるのかが心配である。
- 蒲郡南地区は小学校が3校あり、公共施設のなかで大きな割合を占めている。各地区で一律に公共施設を3割縮減するのだとしたら、この地区は小、中学校の統廃合を前提に話を進めなくてはならない。統廃合を考える前に現在の学校の空教室の利用のあり方を検討するなどして、統廃合をしないで済む方法を探りたい。
- 全市利用型施設（市内全域の方が利用する図書館や市民会館などの施設）は、今回のワークショップで検討する施設の対象外になっているが、生きがいセンターや生命の海科学館などの全市利用型施設は、地区利用型施設としての機能を担っていたり、今後、担う可能性も出てくるだろう。全市利用型施設のなかでも地区利用型施設の機能や配置に影響を及ぼすであろう施設については、併せて検討対象とした方がよいのではないかと。
- 災害時の全市利用型施設の位置づけや活用について鑑みながら、地区利用型施設の機能や配置を検討する必要があるだろう。あわせて、全市利用型施設の市の考え方や方針も示してほしい。
- 府相公民館の移設を検討した際は、移転先をどこにするのかに集中して検討してしまったように感じている。配置や組合せだけを検討して「仏作って魂入れず」にならぬように、その施設でどのような活動をするのかなど、ソフト面も併せて検討する必要があるだろう。
- 府相公民館が竹島小学校敷地へ移設され、竹島小学校との複合施設として建設されることが決定していたことを初めて聞いた。これまであった市民センター機能がなくなる理由も含めて、決まった経緯やその理由をきちんと地元住民に説明してほしい。

- 蒲郡中学校区は広いので、蒲郡南部小学校区と竹島小学校区は1つのエリアと考えても良いが、蒲郡東部小学校区は少し離れているため別のエリアという認識ではないかと。東部地区として結束しているところもある。
- 地区にとって公共施設の機能や配置は、防災の視点でも重要なことである。避難所や防災倉庫の位置、また、防災備蓄品の整備状況などを把握した上で、検討していきたい。
- ワークショップ参加者の意見や検討結果を踏まえるだけでなく、実際に検討対象となっている公共施設（学校や保育園など）の運営を担う現場スタッフの意見も聞いた上で複合化や統廃合等、検討する必要がある。
- ワークショップ参加者だけでなく、ワークショップに参加していない高齢者の意見も聞いてほしい。その際には、老人クラブなど既存の活動や、各地区の集会所に出向いたりするなどして、高齢者の意見を聞く工夫が必要である。

### ■ ワークショップの進め方について

- ワークショップの検討内容は、オープンハウス（パネル展示型説明会）やかかわり版配布なども実施しながら、できるだけ広く蒲郡南地区の方々には知らせてほしい。
- このようなワークショップのようなまちづくりについて話し合う場に、今後増えるであろう高齢者の参加が少ないのが気になる。もう少し参加があった方がよい。
- ワークショップでは、各公共施設の機能や役割、規約や制約、管理体制、築年数や耐震補強の状況などを理解した上で、検討に入りたい。情報提供だけだとなかなか理解ができないので、説明をしてほしい。また、専門用語などは参加者にもわかりやすい表記や説明をお願いしたい。
- 施設や機能をただ一緒にすればよいということではなく、その施設を複合化や統合することで現在の利用者がどのような影響を受けるのか、メリット・デメリットを整理した上で検討していきたい。
- 府相公民館については、既に建設検討委員会と市の協議が重ねられ、竹島小学校敷地への移設と竹島小学校との複合施設として建設される方針があるため、今回は前提条件として検討を進めることになっているが、本来ならば地区利用型施設として整合を図りながら一体的に検討するべきものだと思う。

## 地区のまちづくりの方向性

- 公共施設マネジメントについては、既に策定されている「まち・ひと・しごと総合戦略」をはじめとした、市の上位・関連計画を把握し、まちづくりの視点を持って検討する必要がある。
- 子育てしやすく、暮らしやすいまちを目指せば、人が移り住んでくれるようになると思う。
- 現在の課題だけでなく、中長期的、将来的な地域の課題を想定し、課題解決のための方向性を検討しながら議論を進めていきたい。

## 公共施設の現状や今後について気になること

### ■ 公共施設全般

- 府相公民館が竹島小学校との複合施設とすることを前例として、今後、他の公民館と小学校も複合化をすれば、公共施設を減らすことができ効率的である。他の施設は府相公民館と竹島小学校のように距離もなく、やりやすくて良いのではないかと。
- 児童館や小学校、小学校や保育園等の関連する施設は、隣接していたり、連携しやすい位置にあると利用者にとっては便利で効率性を高めることができる。子育てしやすい、生活しやすい地域につながるのではないかと。

## ■ 公共施設全般（続き）

- 子育て機能を持つ施設や、高齢者が利用する施設を複合化すれば、新たな交流が生まれて相乗効果につながる。
- 公共施設と民間施設が担う役割を整理した上で、場合によっては、公共施設の管理・運営を民間に任せることも検討し、民間事業者と連携をとることを考えてもよいのではないかと。また、学校の空き教室等を活用して、人が大勢集まるような仕組みをつくることで、収入につながるようなことも検討していきたい。
- 全体的に公共施設の情報や案内が不足している。地区外からの転入者は公共施設の機能や使い方がわからない人もいだろう。利用しやすくするための情報提供や工夫をしていく必要がある。
- 地区利用型施設の再編については、地区のまちの状況（変化）、小中学校の空き教室や各公共施設の利用率等の現状を把握し、さらには地区内に影響を及ぼすであろう全市利用型施設の配置の方針を踏まえて検討をしていきたい。
- 公共施設マネジメントの取組みをすることで公共施設への移動が不便になるエリアに居住する方や高齢者のために、コミュニティバスを走らせるなどして利便性を保つなど、あわせて公共交通のあり方も検討する必要がある。
- コミュニティバス等の公共交通について検討する際は、ただ走らせるということではなく、再配置する施設のなかでも特に人が集まる施設や高齢者が集う場所を考えた上で、路線を検討していきたい。
- 公共施設は全般的に駐車場が不足しており、駐車できずに施設を利用できないという問題も発生している。
- 公共施設が集中すると、道路渋滞が生じて交通事故の危険性が増すのではないかと心配である。

## ■ 小学校・中学校

- 蒲郡南地区は、公共施設のなかで学校の占める割合が高い上に、今後、人口減少に伴い児童数、生徒数の減少も予測される。学校の統廃合等で適正な規模にしていくことは、公共施設マネジメントの視点からも教育的視点からも必要ではないか。
- 小中学校の児童生徒数の推移だけでなく、将来の増減見込みを把握した上で、統廃合も含めた小中学校のあり方を検討したい。

- 竹島小学校のように学校と公民館が複合化されると、不特定の人たちが施設に出入りでき、防犯面での不安がある。学校にその他の公共施設を複合化する際は、安全性が保たれるよう、十分に配慮してほしい。
- 行政区と学校区が異なることで、所属するコミュニティも学校と生活圏で変わってしまい、子どもに負担がかかっているのではないかと。別の小学校に通う子どもたちが地元の行事や子ども会に参加しにくい雰囲気を感じることもある。
- 行政区と学校区が異なることで、子どもに負担がかかっていると考えるのは、親世代や地域住民である。子ども同士はすぐに打ち解けているようだ。
- 竹島小学校区に三谷地区の一部が含まれているが、学校区を検討する際に、歴史や文化的な背景への配慮が足りなかったと思う。
- 学校区については、子どもが通学で負担にならないかなどを第一に考え、子どもを中心として検討するものだと思う。
- 学校の授業や部活動などの教育の現場に、もっと市民に関わってもらうことが子どもたちの教育にも良い影響を及ぼし、市民の生きがいにもつながると思う。

## ■ 保育園

- 府相保育園、三谷西保育園は、いずれも津波浸水想定区域内に位置していることから、災害時に危険である。統廃合をした上で、例えば、西田川公園付近のような安全な場所に移ったらどうか。

## ■ 公民館

- 若い世代は、日頃、公民館がどのような用途で利用されているのか、どのようにすれば利用できるのかわからない。運営側からすれば、若い世代が公民館でどのようなことをしてほしいのかわからない。高齢者の利用だけでなく、多世代に集ってもらうためには、マルシェの開催などソフト的な展開も工夫しながら取り組んでいく必要がある。
- 公民館については、夜間利用ができたり、市の窓口業務に対応するなど、もう少し自由に利用できるような制度を見直し、利便性が増せば利用率もあがるのではないかと。
- 府相公民館は、南部市民センターとしての機能もあり貸館業務も行ってきたが、移設によりその機能が失われてしまう。貸館機能をどのように維持していくのかを考えたい。
- 公民館については、利用者数や収入の状況などを踏まえて配置や規模を検討する必要がある。

## ご意見募集

ワークショップに参加している方だけでなく、地区にお住まいのたくさんの方のご意見を踏まえて「地区個別計画」の策定に向けた検討を進めていきます。

- ワークショップで検討されている内容について
- 蒲郡南地区のまちづくりや公共施設について

日々の生活で感じている蒲郡南地区や地区の公共施設に関する些細なことでも構いません。下記のお問い合わせ先まで、メール・ファクス・郵便・持参により、どうぞお気軽にお届けください。差し支えなければ、ご住所、お名前、年齢、性別、連絡先の記載をお願いします。

ご意見をお待ちしています!!



## 次回ワークショップのお知らせ

- 日時： 8月19日（日）  
午後1時30分～午後4時30分
- 場所： 蒲郡中学校 3階  
図書室
- 内容： 地区の課題について  
課題の解決策について

どなたでも傍聴ができます。  
傍聴ご希望の方は、右の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

## お問い合わせ先

蒲郡市総務部財務課  
公共施設マネジメント担当  
〒443-8601 蒲郡市旭町17番1号  
E-mail zaimu@city.gamagori.lg.jp  
TEL 0533-66-1158 / FAX 0533-66-1183

ワークショップについて、  
詳しくは市HPをご覧ください。

<http://www.city.gamagori.lg.jp/unit/zaimu/machizukuri-kokyoshisetsu.html>

